



八高新時代!! 君も挑戦、八高で三刀流!!

「知の泉」に「緑の風」吹く

令和6年12月20日(金)

兵庫県立八鹿高等学校

校長 山本 宏治

27

2学期終業式で、次の話をしました。

2学期は、八高祭(文化祭、体育祭)、1年生2年生の大学・社会見学、各種部活動の新人大会等、そしてオーストラリア、ケアンズへの語学研修など、皆さんが一回りも二回りも成長できる機会がたくさんありました。探究活動や進路講話で、大学の先生、その道の専門家、そして皆さんの先輩にあたる八鹿高校卒業生など、多くの方々から、ものごとを見る際の「新しい視点」に気づかせてもらえる場面も多かったことでしょう。始業式から4ヶ月という時が過ぎた今、2学期終業式を迎えるにあたり、皆さんに「時」のお話をして令和6年の結びの式辞とします。

砂時計の詩

1トンの砂が、時を刻む砂時計があるそうです。
その砂が、音もなく巨大な容器に積もっていくさまを見ていると
時は過ぎ去るものではなく
心のうちに からだのうちに積もりゆくもの
ということを実感させられるそうです。
時は過ぎ去るものではなく
心のうちに からだのうちに積もりゆくもの

(注) 1トンの砂時計

- ・鳥根県大田市の「仁摩サンドミュージアム」にある1年計砂時計「砂暦(すなごよみ)」
- ・ギネスブックにも掲載され、「世界一」とされています。

この詩のお話は、本年度の「先輩からのメッセージ」の扉にやや詳しく書きました。今一度開いてみてほしいと思います。次に、詩をもう一編

一秒の言葉 小泉 吉宏

「はじめまして」この一秒ほどの言葉に、一生のときめきを感じることもある。
「ありがとう」この一秒ほどの言葉に、人のやさしさを知ることがある。
「がんばって」この一秒ほどの言葉に、勇気がよみがえってくることもある。
「おめでとう」この一秒ほどの言葉に、幸せにあふれることがある。
「ごめんなさい」この一秒ほどの言葉に、人の弱さを見ることもある。
「さようなら」この一秒ほどの言葉が、一生の別れになるときがある。
一秒に喜び、一秒に泣く。一所懸命、一秒。

3年生の皆さん、多くの方はこれから受験本番に臨みます。みなさんの心とからだの中に降り積もる一秒一秒が、すべて皆さんの力になります。明日は、あります。明後日も、あります。だから今の一秒を大切に努力するのです。体調に気をつけながら、それぞれベストを尽くして、力を出し切りましょう。

2年生、1年生の皆さん、年があけるといよいよ、それぞれ3年生、2年生の「0学期」です。これから、今まで以上にたくさんの「時」が、皆さんの心とからだの中に降り積もります。今後何十年もの間、あなたによりそい支えてくれることになる、大切な記憶とともに、です。進む道を見定めて、勇気を持って一步を踏み出しましょう。

結びに、あなたは大切な人です。その存在は何物にも代えがたい。あなたにとって大切な人、そしてあなたを大切だと思ってくれている人、そしてあなた自身を大切に、安全安心な冬休みを送り、3学期始業式に出会いましょう。